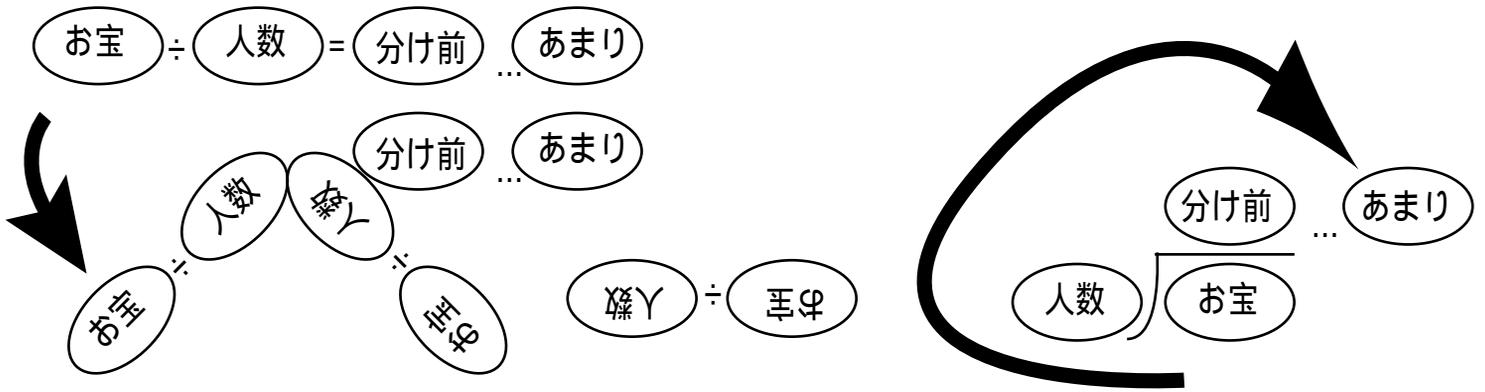


もちろん、計算は筆算でします。暗算は「10の補数と九九」だけです。  
 筆算では次のような配置になります。語呂合わせは同じで真ん中のお宝から右回りです。



$6 \overline{) 57}$  <  $57 \div 6$  > を計算します。

$$6 \overline{) 57}$$

人数と同じ桁数のお宝の所に「命の縦線」を描きます。  
 縦線の左分だけと人数を比べてお宝を何個分けられるかを考えます。  
 この場合「人数 > お宝」なので分けられません。 0 書かない

$$6 \overline{) 57}$$

次は「命の縦線」を一桁末日にずらして考えます。  
 縦線の左分だけと人数を比べてお宝を何個分けられるかを考えます。  
 この場合「人数 : お宝」 = 「人数 < お宝」 = 「6 : 57」なので分けられます。  
 分け前は「9」 余りを確認するために分けた分のお宝をもとお宝全部と  
 比較するためにお宝全部の下に書いて引き算をする。これで残りが出る。

$$\begin{array}{r} 6 \overline{) 57} \\ \underline{54} \\ 3 \end{array}$$

余り「3」と人数「6」を比較して分けられないことを確認する。  
 これは分け前にならない分なので「余り」として右上 (分け前の外) に ... (あまり) として、書いておく。

$$\begin{array}{r} 6 \overline{) 57} \dots 3 \\ \underline{54} \\ 3 \end{array}$$

筆算で計算した後に計算式を完成させる。  
 答えは 答え：9あまり3 と別々に書く。

$$57 \div 6 = 9 \dots 3$$

$$57 \div 6 = 9 \text{あまり} 3$$

$$\underline{\underline{\text{答え} : 9 \text{あまり} 3}}$$